

[研究ノート]

保育所における音楽表現に関する一考察 —アンケート調査による結果より—

原 浩美

A Study on musical expression in daycare
—From the result of questionnaire survey—

HARA HIRAMI

“The national curriculum guidelines for kindergartens (*yoshuen*)”, “the childcare guidelines for daycares (*haukuen*)” and “the education and childcare guidelines for authorized kindergartens/ daycare combined facilities (*kyobanso*)” were revised and publicly notified in 2017 and then came into effect on April 1, 2018. Under these guidelines, standards for early childhood education were defined for daycares as well as kindergarten/daycare combined facilities. The criterion was significant in differentiating objectives for three different developmental stages. These developmental stages are: care for infants (under 1 year old), for toddlers (older than 1 year old and under 3 years old), and for children over 3 years old. This criterion will provide the opportunity to further study children’s learning processes which occur from the infant stage, and to refine contents of care guidelines for the different developmental stages.

We have conducted a survey among daycare directors on whether each daycare facility has their own policy in accordance with the new child care guidelines. In this study, we focused on the subject of ‘expression’, a component of the care guidelines. The survey also questioned care providers on whether the songs they teach are according to the new care guidelines.

Keywords: The new childcare guidelines for daycares, “Expression” as a component of the childcare guidelines, Daycare policies, Children’s songs

キーワード: 園・保育所保育方針、保育内容「表現」、保育例（園）のメニュー、子どもの歌

1. はじめに

平成 20 年に告示・政令され、平成 20 年 4 月 1 日から施行されている「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「こども園保育・保育要領」で、幼児教育が保育所の認定こども園の保育にも同様に対応づけられた意義は大きい。そして、乳児保育と 1歳以上で保育所認定の保育のねらいと内容が 3歳以上児とは分けて示されたことである。このことにより保育内容は乳児園からの学

びを考えたことになり、今後ますます発達段階に応じた保育内容を考えていくことになるだろう。

ただし、今回の告示では、領域「表現」のねらいや内容そのものに変更はなかった。

それでは、乳児保育例（園）において例（園）員はこの保育所保育指針に目を通し、現場で実態を生かしていこうとしているのであろうか。

また、保育士はこの新しい保育所保育方針をどのように捉えているのであるのか。園域「表現」の観点からみていくことにする。

そこで先般において筆者が関わっている、あるいは関係のある4保育所（以下保育所を園と略称する）¹⁾ についてアンケートによって調査を行った。

II. 研究目的

1. 各園では、新しい保育所保育方針に従って、それを保育現場でどのように生かそうとしているのであるのか。保育内容「表現」という観点から、園としての音楽表現活動に関する目標や重点となる課題としてのキーワード（以下キーワードと記述する）をもっていかどうかを明らかにする。

2. 保育士は、この保育所保育方針に対応した子どもの歌を歌わせているかどうかを明らかにする。

III. 研究方法

1. 先般において筆者が関わっている、あるいは関係のある4園について、各保育所（園）長にアンケート調査を行い、各園での、保育目標および保育内容「表現」に関わるような音楽表現活動に関するキーワードの有無、目標などにおける及び保育方針の内容を調査しているかどうかについて分析した。

2. 4園の保育士 80 人に子どもに歌わせた10歌の曲以内を園内で記入してもらうと共に、各保育士の年齢、経験年数、受け持っているクラスを記入してもらい、年齢や経験年数、受け持つ子どもの年齢による園域と歌唱的な傾向があるのかを調査した。

IV. 結果

結果1. 保育内容「表現」という観点からの保育園としてのキーワード

例（園）長の回答による保育所（園）での保育目標および音楽表現活動に関する各園としてのキーワードは表1のようになった。これを見ると、各園での保育目標の中に、保育所保育方針における保育内容「表現」の内容に

基づいたようなキーワードが掲げられていることが読み取れる。

たとえば、園Aでは、「表現する過程の中で、子どもが表現しようとする思いを肯定的に受け止めることで、表現する喜びや自信を育むことを大切にしている。」とあるが、保育方針の3歳以上の保育における「表現」の内容の指針①②の「子どもの自己表現は豊かな形で目されることが多いので、保育士等はそのような表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること」に対応したものである。また、「歌ったり演奏したりしながら、感性を育む。」は3歳以上の保育における「表現」の内容的に「音楽に関し、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどできる楽しさを味わう」に対応したキーワードといえる。

園Bでは「いつも音楽が身近にある環境を心掛けていく」と園域の中に音楽を謳っているが、保育方針の（ウ）内容の趣旨に①「豊かな感性を、身近な環境と十分に関わる中で育むための、優れたものを、心を動かす刺激などに出会い、そこから得た感動を曲の子どもや保育士等と共有し、歌々に表現することなどを通して育まれるようにすること。」と謳われるとともに自然の中での音、音形などに気付くようにすることとなっているが、園Bにおける音楽が身近な環境の中にあることも、感性を育むには大切な要素であろう。②、③についても、オ表現「感じたりことや考えたりを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」など、方針の内容を園々だものとなっている。

園C園のこの項目も同様にオ表現「感じたりことや考えたりを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」という3歳以上児における条件のなかに掲げたものとなっている。②の「人との感情や信頼感を育て、自主・協調の態度を培う」に関してはその自主と同じ項目はなっていないが、乳幼児における（ア）あるは

⑤「最近を元と楽しみ、開けりを開め、愛情や信頼感が芽生える。」とあるように、乳児期から保育士による人間関係、コミュニケーション力を築いている。

⑥圖では、「まずは音を感じよと楽しみを味わおうこと」を重視しており、③圖以上に④図の(ウ)内容の複製や①F 圖の応用紙、身体空間と十分に開かせる空間利用のもの、開かれたもの、心を動かす距離感などを意識し、そこ

から肉と意識を曲の子どもや保育士等と共有し、様々な表現することなどを通して開かれるようにすること、その際、曲の音や調の深、音感にある音や響の形や色などを自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること、¹⁾など意識を聞き樂譜させることの音楽性が述べられてはいるが、まさに音感を通じてよりよするキョウトウが音楽という経験を興って行うことを積極的に促しているともいえる。

表1. 保育目標及び音楽表現活動についてキョウトウ

①圖	①表現する過程の中で、子どもが表現しようとする思いを自然に受けとめることで、表現する喜びや自信を育むことを大切にしている。 ②子どもたちにとって「歌はもたらし、歌ったりを自覚しきたしながら、意識を育むだけでなく、意識との心のつながり、絆、再興りまでつながるものだと考える。
F圖	①いつも活動が展開される空間を心掛けていく ②音楽を通しての他かに、音楽を通して他かに自分を表現できるようにしてほしく ③歌の中音楽を通して意識と一緒に歌う楽しさ、表現を育てる楽しさ、友達の声や音楽を聞いて自分を感じる喜びを感じてほしい。
③圖	①他による活動の中で音楽的の存在を知る ②人との活動や距離感を育て、音楽・意識の態度を育む
④圖	①手に開き出すことが目的ではなく、まずは音を感じよと楽しみを味わおうことを重視している。

結果3. 保育士が歌に接している『子どもの歌』

表2. 子どもの歌に接している曲 (⑤ 圖以外の複製図表)

歌	曲名	数	曲名	数	曲名
1	あかあかあかあか	22	アムロアムロ	22	あーあーあー
2	あかあかあかあか	22	あかあかあかあか	22	アムロアムロアムロ
3	あかあかあかあか	24	あかあかあかあか	24	あかあかあかあか
4	あかあか	26	あかあかあか	26	あかあかあかあか
5	あかあか	26	あかあかあか	26	あかあかあかあか
6	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
7	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
8	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
9	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
10	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
11	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
12	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
13	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
14	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
15	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
16	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
17	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
18	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
19	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか
20	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか	27	あかあかあかあか

① 図は、あかあかあかあか(複製)とあかあかあかあか(複製)の2種類あり、それぞれ27枚ずつあり、合計54枚あり。

各園では、全保育士に「新保育所音楽教材」読んでおくよう指示をしたり、あるいは研修会を開いたりして内容の把握と、どのように音楽に生かすかを研究している。その中で、各園で働く保育士は、実際に活用された保育所音楽教材に基づいて選曲をしているのであるとか、保育所で使われている、あるいは保育士が子どもに歌わせたいとしている曲を、選定する年齢のクラスごと、保育士の年齢ごと、そして保育経験年数ごとに抽選している。全体として、保育士が歌わせたいとしているのは幅広い楽曲で、一人平均約4点曲歌わせた1点曲を選入している。その中で、新曲人の楽曲があったものが2点とより84曲で、楽曲では104曲であった。

調査を見ると、全体的には、明後時代に作られる曲から、近代期、戦前初期そして戦後期に選がれてきた曲と約190年間の音楽、戦歌、そして子どもの歌が選定されていることがわかる。

そしてそのいずれの曲もよく知られている曲である。

① 各年齢担当の保育士が歌わせたい曲

それでは、次に担当クラスごとに歌わせたい曲を見ていくことにする。

表3が0～1歳児担当保育士が歌わせたいとした曲である。60人中28人が0～1歳児担当保育士であるが、これを見ると、全体的に最も多かった『おもしろのチャチャチャ』(1982年)を選んだ19人中11人が0～1歳児の担当である。さらに0～1歳児担当保育士の42%強がこの曲を選んでいる。また『あえるのうら』(加藤トイコ同調、1980年)イスの養育者ティンメルマンによって日本に紹介される1を選んだ全保育士の中の35人中8人が0～1歳児の担当である。曲の中で最も新しいのは、『おんぼ』(1989年)でアニメ『となりのトトロ』のエンディングテーマ曲としてヒットしたものである。また、『01』(1987年)もテレビドラマの中で流れるなどして有名になった。同じ、最も古いのは『むすんでひらいて』(1874年)で、ジャンプオクターブ

ソール曲であるといわれている。日本では最初調楽歌として歌われ、その後童謡唱歌、軍歌としての盛況を辿りながら戦後童謡として定着したものである。

1980年代以前の曲としてはそのほか『チャチャ』(1983年)、『あえるのうら』(1980年)、『チューリップ』(1982年)、『うみ』(1981年)がある。

表3. 0～1歳児担当保育士が選んだ曲

おもしろのチャチャチャ	11
あえるのうら	8
おんぼ	7
あのおまわりさん	6
あふすいとれんたあさん	4
しずかちゃんおんぼ	4
しんがらおんぼ	4
チューリップ	3
むすんでひらいて	3
うみ	3
にんぎょおんぼ	3
さんぽ	2
あひるの村歌	2
あふすいとれんた	2
かみむす	2
ほろろくておんぼ	2

次に2歳児担当の保育士が選んだ曲を見てみよう。

表4. 2歳児担当保育士が選んだ曲

あのおまわりさん	4
さんぽ	4
あふすいとれんた	4
あひるの村歌	3
おんぼ	3
あふすいとれんた	3
アイスタラー	3
あはれなうた	3
アイアイ	3
おんぼ	2

アンケートに協力してくれた2歳児担当保育士は12名である。『あのおまわりさん』(1980年)、『あふすいとれんた』(1981年)、『おもしろのチャチャチャ』(1982年)、『アイスタラー』(1982年)、『あはれなうた』(1986年)、『アイアイ』(1989年)、『おんぼ』

1982年、「ペギー葉山」対決、「どうさん」(1982年)と11曲作らぬが1983年～1984年代に作曲あるいはサットした曲であるものが数曲存在する。この時期は、「パパの恋」が藤原園の味がかけて、中村喜道、大中龍之介らによって1983年に録音された。「子ども達に会いたい(海軍中)」も編まれて作曲するのではなく、自分らで録音のいく音楽を「キョウヘイ」に活動を始めると同時に一致する点が興味深い。3歳児親友から保育士の人数(3歳児担当)者、4歳児担当も、5歳児担当(者)が異なるので、曲目も少なくなることから、4歳児と5歳児も合わせてみていくこととする。

3歳児担当の保育士が選んだ曲は、2歳児までの保育士が選んだ曲とは明らかに異なっている。2歳児担当保育士が選んだ「アイスクリーム」が同じ曲種、すべて異なっている。しかも表も、裏も、表と、を見てみると、4歳児担当保育士と5歳児担当保育士の選んだ「にじ」(同件同じ曲は取り上げられていない。さらに、「動物の歌」や「アイスクリーム」など1980年以降の歌を除き、曲の歌は比較的新しく1980年代以降に作曲されたものが多く、アウフタクトやコンコーションの多用なまはげ、ユーミン等の歌謡の懐い曲が多く、また全体的に1曲に収まるような長い曲が多くみられる。

表4. 3歳児担当の保育士が選んだ曲

アイスクリーム	3
どうな曲がすき	3
歌はバカバカ	3
そらだったらいのにな	2
甲虫はじりるな	2
赤・赤・赤	2
アアアアアア	2

表5. 4歳児担当の保育士が選んだ曲

にじ	2
動物がなまはげどうさん	2
虹のなこら	2
勇気！ 勇気！	2
ロコッパス吹うた	2
子猫のパン屋さん	2

表6. 5歳児担当の保育士が選んだ曲

にじ	3
はじりるのうた	2
アニエグニエグニエ	2

2) 保育士の年齢別による歌がけたい曲

それでは、子どもに歌わせたい曲が保育士の年齢によって異なるのであるならば、20代、30代、40代、50代の保育士が選んだ曲が表も、裏も、表10、表11に示してある。

20代年代にも入っている曲は「おもしろいチャチャチャ」も「手をならましましょう」である。20代保育士は、20名うち録音された30名の40%を占めている。従って、選曲数が多いのは当然であるが、これらの曲は1980年代前後以降に作曲された新しい曲ばかりではなく、1911年の「母恋小学唱歌」七郎歌された「かたつむり」や1980年代前後の曲など、幅広い年代の曲を選んでいる。

表7. 20代保育士が選んだ曲

にじ	6
おもしろいチャチャチャ	5
次のおまわりさん	5
あめふりて道徳	5
アイスクリーム	4
おはじりるなないな	4
涙のふりて道徳	4
しあわせなる手もたて	3
そらあつたないのにな	3
どんたあつたま	3
すまじりるな	3
ままじりるの歌	3
猫とパンパン	3
涙をたてましよう	2
ぼけ中のこどもたち	2
アアアア	2
あひりるの歌	2
おまんであひりて	2
かたつむり	2
あひりるの歌	2
懐いほめアヒガム	2
虹のなこら	2
ふしなななチャット	2
赤・赤・赤	2
あめふりるな	2
アアアアアア	2

一方、30代保育士は4名と人数が少ないが、1980年代以前の曲を選んでいる。30代保育士は22名と20代保育士に次いで多く、聴曲も20代保育士のように幅広い年代にあふつた曲を選んでいる。

40代保育士は14名で、比較的新しい曲もあるが全体としては、1980年代から1990年代頃に作曲された曲が多い。

表9. 30代保育士が選んだ曲

おもちゃのチャチャチャ	7
手をとって歩きましょう	4
おぼけな人でないか	3
にじ	2
さんぽ	2
かえるのうた	2
あめふりくまのこ	2
アイスクリーム	2
世界の中でとももれが	2
どんな色が好き	2
リッツェスチューズ	2
バスさつこ	2
チューリップ	2
夢をかかえてどうえもん	2
うみ	2
真夜中のうた	2

表10. 40代保育士が選んだ曲

手をとって歩きましょう	6
さんぽ	6
おもちゃのチャチャチャ	4
せんせいとあともだち	4
しあわせなる手をとってさうらう	3
だにうた	3
思い出のアルバム	3
犬のおまわりさん	2
世界の中でとももれが	2
はじめるの一手	2
リッツェスチューズ	2
おつかい盛りさん	2
はなはなとくる車	2

表11. 50代保育士が選んだ曲

手をとって歩きましょう	3
かえるのうた	3
おもちゃのチャチャチャ	2
犬のおまわりさん	2
せんせいとあともだち	2
チューリップ	2
さんぽ	2

3) 経年変化の傾向による歌のむねの違い

「にじ」、「おもちゃのチャチャチャ」がどの経年の保育士が選んだ曲のなかにも入っている。

表12. 保育歴5年未満の保育士が選んだ曲

にじ	3
おもちゃのチャチャチャ	2
あめふりくまのこ	2
アイスクリーム	2
おぼけな人でないか	2
手をとって歩きましょう	2
思い出のアルバム	2

表13. 保育歴5年から10年未満の保育士が選んだ曲

おもちゃのチャチャチャ	6
にじ	3
世界の中でとももれが	3
あめふりくまのこ	3
手をとって歩きましょう	2
さんぽ村長さん電車あそび	2
はじめるの一手	2
かたしげり	2
こころの物語	2
手をとって歩きましょうの歌謡いくもん	2

表14. 保育歴10年以上・15年未満の保育士が選んだ曲

犬のおまわりさん	5
手をとって歩きましょう	4
おぼけな人でないか	4
あめふりくまのこ	3
世界の中でとももれが	3
手をとって歩きましょうの歌謡	3

まうしゆうな	3
星のめぐり	3
あもあんのまてまてまて	3
たて	2
さんぽ	2
アイスクリーム	2
ぜんせいとれともだち	2
手紙ひろめ大團圓	2
ぶんをあげます	2
バスきっこ	2
アイアイ	2
あやさんの料理	2
あやかいのあやさん	2
あやがにのあや	2
あやがたててどうえもん	2
あやぐまさん	2
あしあしがアット	2
あしあしあしあしあ	2
あやあがまましよう	2

しかし、その数は、総数に対して5年未満の保育士は特にその数割の特異的な曲というのはない。総数が少ないため、同じ曲を複数曲ごとに重複して持っているのではないだろうが、

表15. 保育園が10年以上の保育士が選んだ曲

あもあんのまてまてまて	7
手紙ひろめ大團圓	7
さんぽ	6
かえるのうた	5
次次あやのうた	4
あなせいあなあもあや	3
しあわせな手紙たてたころ	3
ほつめあしあ	3
まご文がユーエ	3
しんぼん玉	3
ましまのうた	3
こまのうた	2
あしあがアルピス	2
たて	2
アイスクリーム	2
保育中のことあやあが	2
手紙ひろめあしあのうた	2
あやさんの料理	2

ブューブュー	2
けずらふけずらふ	2
はなはなとるま	2
あやてあやのうた文文文一日	2
あやあやのうたあしあ	2

一方、保育士数が5年以上あるいは10年以上上となってくると、曲の数を増やせてきた結果と思われるが、古い曲から比較的新しい曲まで年代にわたる選曲をしている。5年以上10年未満の保育士は数は少ないが、「ここちのほっこり」や「まよならぼくのまのぼけくまん」など、卒園式によく使われる曲を挙げている。

また、5年以上10年未満の保育士も「たのせつなともだち」という最近卒園式でよく使われている曲を挙げ上げている。

これは卒業式という特別な場面で行われる曲であることも卒業式と関係があり、子どもに使われた曲となっているのであらうと思われる。

10年以上の経験を持つ保育士では、5年以上の経験を持つ保育士よりもさらに異なる曲の種類も多く、選曲も古い曲から新しい曲と幅広い時代にあわっている。

4. 総論的考察

今回調査した札幌圏では、保育所長層層の保育内容「表現」の内容を含む保育目標やメニューを掲げているという結果が示された。

これらの保育目標やメニューの一部は、改訂される前の保育教科にも掲載されていたものにも含まれているが、改訂された後の保育教科の内容よりさらに細かな内容にも対応したものとされており、各保育園では保育内容「表現」を保育の重点を内容と位置付けしていることが明らかとなった。

また保育士が子どもにも使われる曲としていた曲も見てみると、0-1歳児の保育士では、他園が1曲に収まるような比較的短い曲が多く、楽曲の種類もあまり重複していない曲が多く選ばれている。さらに、「手をたたくましよう」や「をすんでひらいて」などを複数回をどのプログラムをしながらかえる曲も入っている。これは

から、保育士はローリー童謡が強い中年代曲、楽園しやすい曲を聴かせていることがうかがえる。

3歳児担当の保育士が選んだ曲の多くは、1950—1990年代に作られたもので、ちょうど「ロビーの会」が開始された時代と時を同じくする。すなわち、これは保育所音楽教材保育内容「民間」の内容音において、1歳3歳音楽教材では「国音曲、リズムやそらおどろかせた時の動きを楽しく」、「国歌を歌ったり、簡単な手遊びや歌を歌う遊びを通して」、「子ども達の心を豊かに育てる」という目的を掲げている。保育士はこの観点に沿って、比較的短く難度がない曲を選び、手遊びなど取り入れようとしていて、さらに3歳児においては、「子どもたちに自ら歌い自ら音楽が」、「順当に作曲するのでなく想像のいく曲を作る」というキーワードのキーワードが、「想像を豊かに」と書かれたロビーの会の作品が保育所保育内容「民間」の3歳児音楽教材に用いる内容の観点にある「種々を表現の仕方や感情を豊かにする経験」として観望している。この子どもに歌わせる曲もちょうどよわしい曲であるということであるのか。

3歳児、4歳児、5歳児では、3歳児に「数字の歌」や「アイスクリーム」など1950年前後の歌が入っているが、他の歌は比較的新しく1980年代以降に作曲されたものが多い。それらはアヴァンガードやシンフォニーの多様なスタイルやフォークの音楽の新しい曲が多く、また全体的に1頁に収まるような短小曲が多くみられる。

保育士としては、3歳以上にするとこころいかに作る「アインシュタイン」の曲を多く聴かせることと、保育士自身が好きな曲、懐かしい曲を子どもたちにも歌わせられると考えているのではかと推察される。保育所保育教材保育内容「民間」の内容音において、3歳以上にでは「国生詞の中で楽しいものを中心に選んで流し歌に飽か、イメージを豊かにする」、「国語や国産品の中で、感動したことや思い出を話させよう」、「国語に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を弾いたりなどする楽しさを味わう」、とあるように音響に親しむ中で感動す

るような曲選びが表れられ、前述したように保育士は比較的新しい曲の中からアインシュタインの曲を選び、保育士自身が好きな曲、懐かしい曲を子どもたちにも歌わせられることによって「民間」の内容音も同様化しようとしていると考えられる。

このように、乳児と3歳未満児、そして3歳児以上児とは、保育士の選曲が明らかに異なっていることから、選定された保育所保育教材の内容にある乳児保育と3歳以上3歳未満児の保育の異なる内容が3歳以上に区分けで用いられることと一致することが明らかになった。

一方、保育士の年代別により子どもたちに歌わせる曲を年代別とすると、30代34代の保育士の選曲の曲から観望の面でも、戦間期の曲の割合を選んでいるのに対して、40代になると1950年から1980年頃の曲を選んでいる。さらに50代になると1980年以降の曲を選んでいる。これらの選曲を見ると、1980年代およびそれ以降の曲はどの年齢層の保育士も子どもに歌わせた曲として挙げているが、40代では1980年頃までの曲、50代30代はさらに新しい曲を選んでいるのは、自分たちが歌った歌であるからであろう。さらに最近の歌はリズムなどポップ調で日々から歌いながらいるのと取り合い曲もあり、保育士の年齢が上がると歌いにくく感じられて選ばないのではとも思われる。

しかも、ポップ調のシンクの新しい現代の曲が子どもたちの選曲方を育て、想像を豊かにするとはいえない。昔から懐かしい曲が残っていた曲は子どもたちの選曲方を育て、想像を豊かにするに資することのできる場合が多いと考えられる。

次に、保育園での経年累年の経過による選曲についてみてみると、保育士歴の長い保育士は選曲について比較的傾向はないが、その中で経年累年保育士たちが歌ってきた歌を聴聞しているところから、自分自身のアインシュタインによる歌を聴聞がされているのではないかと考えられる。したがって、経年累年が長くなるほど、懐かしい曲が聴聞されているのは当然といえる。なかでも、年譜式などの

行事で歌われる事は保育士にとっても活動的であり、記憶に残るものとして子どもの歌わせたいとしているのである。

④ ③、またあとと今後の展開

今回の調査では、九州の4園でのみの調査で、この歌が全体を占めるものではない。しかし、各保育園では、調査対象保育教師による、新しい保育内容の計画がカリキュラムを立てるべく園内で研修会を開いたり、各論で行われている園外の研修会に参加したりと努力を重ねていることが読み取れる。そして結果として、保育内容「歌」も新しい保育所保育教科に写込まれた。

内容を取り入れたらものとなっている。さらに、考察で述べたように福岡の保育士は、乳児、3歳未満児が歌かせたい曲を、3歳以上児とは異なった観点から選曲していることが読み取れた。

今回の調査では、「風船士の担当クラスで歌われている歌」ではなく、「担当クラスで歌わせたい歌」を記入してもらうことによって、保育士自身の要望が分かるようにしたために、一方で、世代間による選曲の差も、保育士間の園さによる選曲の偏りも出てきたりした。

今後は、対象に当たっているクラスで歌われている歌と保育士自身の歌かせたい歌の選曲を

比較することによって、将来的な子どもの歌に因る選曲が聞けるものと期待している。

そして、ともすればフェルムールに置かれてくる『子どもの歌』と称する習慣をそのまま子どもたちに与えるのではなく、本当に、その歌が子どもたちの感性を刺激し豊かな情緒を築くことができるのかを吟味して与えるための研究が必要であろう。

そのためには、『子どもの歌』の作曲家も、旋律に説かれるのではなく、またより芸術的にもいう大人の感性によって曲作りを行うのではなく、子どもたちのそれぞれの年齢に見合った適切な曲作りを求めたい。

本研究名称は保育所であるが、調査した保育園が〇〇保育園という形態であるので保育所(園)とし、西(園)図と記載することとした。また、保育所に在籍する乳幼児は園児という呼称を適用すること。さらに各保育園についても園という呼称を用いることとした。

参考文献

厚生労働省告示第117号「保育所保育指針」(平成20年3月31日)

(2010年3月28日閲覧)